

# リニア27年開業「ぎりぎり」

## JR東海 環境対策静岡県と対立

JR東海の金子慎社長は10日の記者会見で、環境対策を巡って静岡県と対立が続いているリニア中央新幹線の工事について、今後順調に進んでも「(予定している) 東京・品川―名古屋の2027年開業はぎりぎりであり、厳しい工程だ」と訴えた。静岡県内の準備工事が遅ければ、予定通りの開業は困難との認識を改めて示した。

一方、静岡県の川勝平太知事も10日記者会見し「私の関心は27年開業ではなく、工事の安全だ」と述べ、開業時期にこだわらず環境対策を徹底するよう求めていく考えを強調。依然として両者の隔たりは大きい。



金子氏は27年開業には6月中の着手が必要との考えをこれまで明らかにしており「本当は(工程に)余裕を持っておきたいが、だんだん切迫している」と指摘した。「開業に向けて重い責任、大きな期待を背負

っている。環境問題を尊重するが、できるところまでの準備を進めたい」とも話した。川勝氏は11日にリニアに関する工事現場の視察を予定している。金子氏は「理解を深めてもらい、その上

で早い時期に面会したい」と期待感を示した。静岡市は10日、リニア中央新幹線の工事車両が山間部に向かう際に使う主要地方道のトンネル新設工事に関し、JR東海と施行協定を締結した。静岡市は18年6月、JR東海が一般車も使える工事用のトンネルを整備することで基本合意した。協定はその合意を確認する内容。

6月11日 神戸新聞

夢の新幹線。

「夢には犠牲は付き物」で片付けるのか、

「共に見る夢のために協力できること」「よりベターな方法」を模索することができるのか。

夢にもまた人と人とか複雑に絡みます。一方向だけの想いではどうにもならないものですね。